



自閉症を理解する

生物医学的（バイオメディカル） 検査と治療オプションの重要性

伝統的に、自閉症の診断は行動の観察に基づいており、治療は主に問題行動の緩和に焦点を合わせていました。しかし、医療問題がしばしば自閉症の行動を引き起こすか、または貢献している障害には、現実に生物医学的要素があります。最も一般的な問題には、カンジダおよびクロストリジウムの胃腸異常増殖、環境毒素の解毒不能、および食物不耐性および/またはアレルギーの発生が含まれます。これらの物理的および環境的要因は、脳および身体に利用可能な栄養を制限し、その結果、細胞、代謝、および中枢神経系の機能に損傷を与えます。

自閉症に対する遺伝的感受性は、この複雑な障害の発症を定める可能性があります。栄養不足と食物アレルギーは症状の重症度に強く影響します。毒素への暴露と消化管内の不均衡な微生物の増殖は、食物に対する病理学的反応に寄与します。酵母（最も一般的なのはカンジダ属）、寄生虫、ウイルス、および細菌、特にクロストリジウムはすべて、病原体として作用する可能性があります。再発も起きやすい有害な腸内微生物を根絶し、適切な腸内細菌叢のバランスを回復することは、身体が治癒し解毒し始めることができるようになるために最適な最初の対策事項です。また、炎症の一因となる可能性のあるIgG反応性食品の排除は、消化管の治癒の重要な要素です。

異常な腸内細菌叢により悪化する自閉症で見られる末梢の問題

- デトックス経路の障害
- グルタチオン濃度の低下
- 質の悪い睡眠
- 発声および行動の問題
- 酸化ストレス
- 免疫機能障害
- 必須脂肪酸欠乏

自閉症スペクトラム障害に推奨される検査

- 有機酸検査
- TOXDetect検査
- マイコトキシン検査
- メタル毛髪検査
- IgG食物アレルギー検査
+カンジダ
- グリホサート検査
- アドバンスコレステロール検査
- 広範囲大便分析
- 銅+亜鉛プロファイル
- オメガ3検査
- 連鎖球菌抗体プロファイル

自閉症スペクトラム障害に推奨される検査

有機酸検査 (OAT)

微生物の異常増殖(酵母および細菌)は、有機酸検査(OAT)で測定できます。カンジダのバランスが崩れると、腸壁の領域が破壊され、毒素が生成され、リーキーガット症候群に導く可能性があります。炎症性免疫反応と複数の食物過敏症は、腸の漏れ(リーキーガット)から生じる可能性があります。自閉症の子供の多くは、特定のクロストリジウム属の種の異常増殖を起こし、HPHPAと呼ばれる化合物を生成し、ドーパミン代謝を妨害する可能性があります。HPHPAは、多大な神経学的効果を持つ強力な毒素であり、気分のむら、かんしゃく、極度の不安、攻撃性、および/または自傷行為につながる可能性があります。

マイコトキシン検査

カビ真菌から放出されるマイコトキシンは、環境で最も一般的な毒素の一部です。マイコトキシン曝露の大部分は、食物摂取または水害を受けた建物や家からの空気中曝露によるものです。マイコトキシン曝露による症状の重症度を自閉症と関連させる研究が現在出てきています。これは、おそらく自閉症の人の解毒能力が一般的に低下しているためです。マイコトキシン検査では、11種類の一般的なマイコトキシンへの曝露を特定し、効果のある解毒治療の対策に役立てることができます。

IgG食物アレルギー検査+カンジダ

IgGを介した食物過敏症は、子供の免疫系にストレスを与え、消化を損ない、炎症を引き起こし、行動上の問題を増加させます。IgG食物アレルギー検査では、アレルギー専門医によって一般的に検査されていない特定の抗体反応を特定できます。問題のある食物を排除すると、免疫システムが強化され、自閉症の症状と消化器系の問題を大幅に減らすことができます。

TOXDetectプロフィール

環境汚染物質への曝露は、自閉症を含む多くの慢性疾患に関連しているため、私たちは、フタル酸エステル、揮発性有機化合物、農薬など、一般的に曝露される有害物質の様々な代謝物を評価するTOXDetectプロフィールを作成しました。

メタル毛髪検査

自閉症の症状は、水銀毒性の症状と一致しています。金属毒性は、認知、言語、免疫、行動に影響を与えます。鉛、ヒ素、アルミニウム、水銀などの重金属を特定し除去することは、回復に向けた重要なステップです。自閉症児は、水銀などの有毒金属の除去に不可欠なグルタチオンとシステインのレベルが低い傾向があることを示すエビデンスがあります。

グリホサート検査

グリホサートは、世界で最も広く生産されている除草剤です。グリホサートの使用と自閉症を含む多数の慢性疾患との間に高い相関関係が存在します。グリホサートにさらされた食物を摂取すると、腸内微生物叢が変化し、そこではクロストリジウムなどの有害種が有益な微生物に取って代わります。クロストリジウム属細菌が増加すると、HPHPAや4-クレゾールなどのクロストリジウム代謝産物の産生が増加します。これらの化合物は、脳および交感神経系のドーパミンからノルエピネフリンへの変換を阻害します。ドーパミンの代謝物は、ミトコンドリア機能障害、酸化ストレス、神経毒性 α -シヌクレインプロトフィブリルの形成、およびタンパク質分解の障害を誘発します。

